

(様式第9)

海大病第 689号  
平成23年10月4日

北海道厚生局長 殿

北海道大学病院長 福田 諭 (印)

北海道大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	100.6 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	249人	258人	455.4人	看護補助者	105人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	108人	40人	140.0人	理学療法士	12人	臨床検査技師	74人
薬剤師	33人	0人	33.0人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	8人	その他	0人
助産師	25人	0人	25.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	820人	25人	839.3人	臨床工学技士	16人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	1人	0人	1.0人	栄養士	0人	その他の技術員	1人
歯科衛生士	13人	0人	13.0人	歯科技工士	6人	事務職員	244人
管理栄養士	7人	0人	7.0人	診療放射線技師	49人	その他の職員	62人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	788.6人	23.3人	811.8人
1日当たり平均外来患者数	2403.0人	721.4人	3124.4人
1日当たり平均調剤数			1157.9剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	3人
超音波骨折治療法	0人
先天性難聴の遺伝子診断	1人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	2人
最小侵襲椎体椎間板脊椎搔爬洗浄術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	1人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	0人
パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びベパシズマブ静脈内投与の併用療法(これらを三週間に一回投与するものに限る。)並びにベパシズマブ静脈内投与(三週間に一回投与するものに限る。)による維持療法 再発卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名	該当無し	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	314人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	156人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・重症筋無力症	131人	・原発性胆汁性肝硬変	131人
・全身性エリテマトーデス	560人	・重症急性膵炎	3人
・スモン	4人	・特発性大腿骨頭壊死症	138人
・再生不良性貧血	103人	・混合性結合組織病	56人
・サルコイドーシス	347人	・原発性免疫不全症候群	45人
・筋萎縮性側索硬化症	51人	・特発性間質性肺炎	25人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	301人	・網膜色素変性症	52人
・特発性血小板減少性紫斑病	183人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	83人	・肺動脈性肺高血圧症	23人
・潰瘍性大腸炎	216人	・神経線維腫症	67人
・大動脈炎症候群	71人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	48人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	69人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	15人
・脊髄小脳変性症	252人	・ライソゾーム病	6人
・クローン病	94人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	15人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	28人	・脊髄性筋萎縮症	4人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	531人	・球脊髄性筋萎縮症	7人
・アミロイドーシス	14人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	11人
・後縦靭帯骨化症	215人	・肥大型心筋症	9人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	173人	・ミトコンドリア病	6人
・ウェグナー肉芽腫症	23人	・リンパ管筋腫症(LAM)	3人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	125人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	93人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	14人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	57人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・強度変調放射線治療	・
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	・
・画像支援ナビゲーション手術	・
・歯周組織再生誘導法	・
・悪性黒色腫又は乳がんのセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍, 前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって, 原発性のものを除く)に係るものに限る)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	48
部 検 の 状 況	部検症例数 43 例 / 部検率 8.11%

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
抗リン脂質抗体症候群の発症メカニズムの分子病態論的解析	小池隆夫	第二内科	7,020,000	補 委 文部科学研究費 基盤研究(B)
HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	小池隆夫	第二内科	4,000,000	補 委 厚生労働省 エイズ対策研究事業
2006-2010 難治性疾患克服研究の評価ならびに研究の方向性に関する研究	小池隆夫	第二内科	1,500,000	補 委 厚生労働省難治性疾患 克服研究事業
新たな診断・治療法開発のための免疫学的手法の開発	小池隆夫	第二内科	30,000,000	補 委 厚生労働省難治性疾患 克服研究事業
免疫疾患の病因・病態解析とその制御戦略へのアプローチ	小池隆夫	第二内科	2,000,000	補 委 厚労省科学研究費 免疫アレルギー疾患等 予防・治療研究事業
関節リウマチの関節破壊ゼロを目指す治療指針の確立、及び根治・修復療法の開発に関する研究	小池隆夫	第二内科	2,500,000	補 委 厚労省科学研究費 免疫アレルギー疾患等 予防・治療研究事業
薬剤耐性HIVの動向把握のための調査体制確立およびその対策に関する研究	小池隆夫	第二内科	2,800,000	補 委 厚生労働省 エイズ対策研究事業
関節リウマチに対する生物学的製剤の作用機序、投与方法、治療効果等に関する研究	小池隆夫	第二内科	2,000,000	補 委 厚労省科学研究費 免疫アレルギー疾患等 予防・治療研究事業
関節リウマチにおける生物学的製剤の長期安全性と副作用リスク因子に関する疫学研究	渥美達也	第二内科	200,000	補 委 文部科学研究費基盤研究(B)
抗リン脂質抗体症候群の発症メカニズムの分子病態論的解析	渥美達也	第二内科	1,500,000	補 委 文部科学研究費基盤研究(B)
新たな診断・治療法開発のための免疫学的手法の開発	渥美達也	第二内科	3,000,000	補 委 厚生労働省難治性疾患 克服研究事業
ANCA関連血管炎のわが国における治療法の確立のための多施設共同前向き臨床研究	渥美達也	第二内科	3,900,000	補 委 厚生労働省難治性疾患 克服研究事業
難治性不育症に関連する遺伝子の網羅的探索	渥美達也	第二内科	1,000,000	補 委 厚生労働省難治性疾患 克服研究事業
自己免疫疾患に関する調査研究	渥美達也	第二内科	3,000,000	補 委 厚生労働省難治性疾患 克服研究事業

小計 14

治験の実施に関する研究[タクロリムス水和物]	渥美達也	第二内科	2,500,000	補委	日本医師会 治験推進研究事業
抗プロトンポンプ自己抗体の病原性の分子生物学的検討	渥美達也	第二内科	1,820,000	補委	文部科学研究費基盤研究(C)
自己免疫疾患におけるRasGRPファミリー分子の発現検討	保田晋助	第二内科	1,300,000	補委	文部科学研究費基盤研究(C)
抗リン脂質抗体症候群と全身性エリテマトーデスの疾患感受性遺伝子に関する研究	堀田哲也	第二内科	1,300,000	補委	文部科学研究費基盤研究(C)
リツキシマブ投与後の低免疫グロブリン血症とB細胞形質変化	西尾充史	第二内科	1,950,000	補委	文部科学研究費基盤研究(C)
白色脂肪細胞の褐色化と動脈硬化粥腫の形成・破綻の機序解明	三好秀明	第二内科	1,690,000	補委	文部科学研究費基盤研究(C)
Sec63コンディショナルノックアウトマウスを使用した腎嚢胞、肝嚢胞の解析	西尾妙織	第二内科	6,370,000	補委	文部科学研究費若手研究(A)
ダブルネットワークゲルが生体内で誘導する関節軟骨自然再生現象の分子機序の解明	安田和則	スポーツ医学診療科	14,690,000	補委	日本学術振興会
液性因子処理滑膜由来幹細胞投与による腱マトリクス再構築の制御	近藤英司	スポーツ医学診療科	1,300,000	補委	日本学術振興会
除負荷がIn Vivoで誘導する腱線維芽細胞アポトーシスの発見と分子機序の解明	北村信人	スポーツ医学診療科	1,300,000	補委	日本学術振興会
骨折治癒過程におけるマクロファージ遊走阻止因子の役割とその制御による効果の解明	小野寺伸	スポーツ医学診療科	1,170,000	補委	日本学術振興会
運動神経信号付加は本当に起こっているのか？～顔面表情筋mRNA発現変化を捉える～	山本 有平	形成外科	8,060,000	補委	日本学術振興会

小計12



光イメージングによる癌転移機構解明 -メラノーマがリンパから血流に入る瞬間を捉える	古川洋志	形成外科	8,450,000	補 委	日本学術振興会
クロイド線維芽細胞の起源を探る -ケモカインに誘導されるfibrocyte-	山本 有平	形成外科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
浸潤型クロイド細胞は存在するのか！ -効率的なクロイド治療を目指して-	林 利彦	形成外科	3,770,000	補 委	日本学術振興会
メラノーマとリンパ管のinteraction-転移 促進因子は産生されるのか？-	小山 明彦	形成外科	3,770,000	補 委	日本学術振興会
大規模コホート研究による難治性気道 疾患の病態解明と個別化治療への展 開	西村正治	第一内科	4,000,000	補 委	日本学術振興会
難治性喘息に対する創薬への挑戦- NF-κ B阻害薬(DHMEQ)の可能性-	西村正治	第一内科	900,000	補 委	日本学術振興会
慢性喫煙と加齢が肺胞マクロファージ のアポトーシス細胞食能に与える影 響	南須原康行	第一内科	900,000	補 委	日本学術振興会
気道リモデリング、肺気腫形成におけ るオステオポンチンの関与	今野 哲	第一内科	800,000	補 委	日本学術振興会
ガンマセクレターゼインヒビターと放射 線併用による治療効果の検討	榊原 純	第一内科	1,600,000	補 委	日本学術振興会
炎症性肺疾患における加齢と酸化スト レス	長井 桂	第一内科	1,400,000	補 委	日本学術振興会
生体侵襲・生体反応相互作用から生じ る臓器不全の病態解明とその予防・治 療体系の確立	丸藤 哲	救急科	7,000,000	補 委	日本学術振興会

小計11

敗血症病態におけるサイトカインのバランス機構解析と遺伝子治療の確立	澤村 淳	救急科	700,000	補 委	日本学術振興会
外傷直後の凝固障害の病態解明とその制御に関する研究	早川 峰司	先進急性期医療センター	1,800,000	補 委	日本学術振興会
全身性炎症反応症候群SIRSにおける制御性Tregの検討	久保田 信彦	先進急性期医療センター	800,000	補 委	日本学術振興会
瀰漫性軸索損傷が疑われる急性期頭部外傷患者におけるsusceptibility weighted imaging(SWI)の有用性の検討	上垣 慎二	救急科	1,000,000	補 委	JA共済交通事故医療研究助成
科学研究費補助金 基盤研究(A) 「ヒト化アクティブモデルマウスによる水疱性類天疱瘡の発症機序解明と新規治療法開発」	清水 宏	皮膚科	8,200,000	補 委	日本学術振興会
厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業) 「アトピー性皮膚炎の予防・治療法の開発及び確立に関する研究」	清水 宏	皮膚科	27,000,000	補 委	厚生労働省
科学研究費補助金 挑戦的萌芽 「新規表皮水疱症モデルマウスに対する骨髄移植療法の試み」	清水 宏	皮膚科	3,000,000	補 委	日本学術振興会
保健医療分野における基礎研究推進事業研究プロジェクト「疾患に対する新しい生物製剤の開発」	清水 宏	皮膚科	95,000,000	補 委	独立行政法人 医薬基盤研究所
厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 「稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究」	清水 宏	皮膚科	4,000,000	補 委	厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業) 「遺伝学的手法における診断の効果的な実施体制に関する研究」	清水 宏	皮膚科	700,000	補 委	厚生労働省
科学研究費補助金 挑戦的萌芽	秋山真志	皮膚科	3,000,000	補 委	日本学術振興会
科学研究費補助金 基盤研究(B) 「魚鱗癬に対する新規治療法ならびに胎児療法の開発」	秋山真志	皮膚科	4,100,000	補 委	日本学術振興会
厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)	秋山真志	皮膚科	15,000,000	補 委	厚生労働省
文部科学省・科学技術振興調整費・先端融合領域イノベーション創出拠点の形成 受託事業名:未来創薬・医療イノベーション拠点形成	秋山真志	皮膚科	10,000,000	補 委	文部科学省

小計14

厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)「先天性角化不全症の効率的診断方法の確立と治療ガイドラインの作成に関する研究」	秋山真志	皮膚科	1,000,000	補委	厚生労働省
厚生労働科学研究費補助金(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業)「患者末梢血を用いた重症薬疹モデルマウスの作成および発症機序の解明」	阿部理一郎	皮膚科	8,555,000	補委	厚生労働省
科学研究費補助金 基盤研究(C)「骨髄由来表皮細胞を用いた再生医療」	阿部理一郎	皮膚科	500,000	補委	日本学術振興会
科学研究費補助金 基盤研究(C)「乳房外パジェット病におけるハイリスク群の抽出の試み」	青柳 哲	皮膚科	1,900,000	補委	日本学術振興会
科学研究費補助金若手研究(A)「17型コラーゲンの分子イメージングによる水疱性類天疱瘡の病態メカニズムの解明」	西江 渉	皮膚科	3,200,000	補委	文部科学省
科学研究費補助金 基盤研究(C)「遺伝性皮膚疾患の責任遺伝子の同定」	有田 賢	皮膚科	900,000	補委	日本学術振興会
科学研究費補助金 若手研究(B)「骨髄幹細胞を用いた表皮水疱症における再生医療」	猪熊大輔	皮膚科	1,600,000	補委	文部科学省
科学研究費補助金 基盤研究(C)「自己抗原ヒト化マウスを用いた後天性表皮水疱症モデルの作成と新規治療法開発への応用」	芝木晃彦	皮膚科	1,000,000	補委	日本学術振興会
科学研究費補助金 基盤研究(C)「ヒストン脱アセチル酵素阻害剤を用いた難治性潰瘍の遺伝子治療」	安川香菜	皮膚科	500,000	補委	日本学術振興会
文部科学省 科学研究費補助金 若手研究(B)「ヒトVII型コラーゲン含有ミルクによる表皮水疱症の治療」	伊藤 圭	皮膚科	1,900,000	補委	文部科学省
文部科学省 科学研究費補助金 若手研究(B)「ABCA12再構成リポソームを用いた道化師様魚鱗鱗モデルマウスの治療法開発」	山根尚子	皮膚科	1,500,000	補委	文部科学省
科学研究費補助金 基盤研究(C)「水疱を利用した表皮水疱症の新規遺伝子治療の開発」	大田光仁	皮膚科	1,600,000	補委	日本学術振興会
ゲノム解析およびプロテオーム解析による頭頸部癌診断・治療の新展開	福田 諭	耳鼻咽喉科	5,070,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌抗癌剤耐性における網羅的マイクロRNAプロファイリング	折舘 伸彦	耳鼻咽喉科	780,000	補委	日本学術振興会
アレルギー性鼻炎根治を指向したSIRT1蛋白研究の新しい展開	中丸 裕爾	耳鼻咽喉科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ゲノム・プロテオーム解析を用いた頭頸部癌EGFR過剰発現関連分子の同定	本間 明宏	耳鼻咽喉科	650,000	補委	日本学術振興会

頭頸部癌の薬剤耐性獲得におけるミトコンドリアDNA変異に関する研究	鈴木 清護	耳鼻咽喉科	1,040,000	補委	日本学術振興会
平衡機能における非共同性眼球運動の役割とその神経機構の解明	武市 紀人	耳鼻咽喉科	650,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌細胞におけるマイクロRNA活性化機序の解明	加納 里志	耳鼻咽喉科	1,560,000	補委	日本学術振興会
前庭水管拡大症の臨床所見と遺伝子変異解析に基づく新診断基準作成	福田 諭	耳鼻咽喉科	700,000	補委	厚生労働省
急性高度難聴に関する調査研究	福田 諭	耳鼻咽喉科	800,000	補委	厚生労働省
センチネルリンパ節理論による頭頸部癌微小転移の解明と個別的治療法の開発	本間 明宏	耳鼻咽喉科	800,000	補委	厚生労働省
進行頭頸部がんに対する化学放射線療法を中心とした集学的治療の開発に関する研究	本間 明宏	耳鼻咽喉科	800,000	補委	厚生労働省
Usher症候群に関する調査研究	武市 紀人	耳鼻咽喉科	700,000	補委	厚生労働省
優性遺伝形式をとる遺伝性難聴に関する調査研究	武市 紀人	耳鼻咽喉科	700,000	補委	厚生労働省
先端融合領域イノベーション創出拠点の形成 タンパク質修飾技術等による次世代創薬と光計測技術による個別化医療との融合	佐々木秀直	神経内科	11,000,000	補委	文部科学省
多系統萎縮症におけるゲノム網羅的コピー数多型(CNV)の研究	佐々木秀直	神経内科	900,000	補委	文部科学省
正常圧水頭症の疫学・病態と治療に関する研究	佐々木秀直	神経内科	1,000,000	補委	厚生労働省
重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究	佐々木秀直	神経内科	1,000,000	補委	厚生労働省

小計13

運動失調症の病態解明と治療法開発に関する調査研究	佐々木秀直	神経内科	1,200,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患に関する調査研究	佐々木秀直	神経内科	2,000,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患の分子遺伝学的研究	矢部一郎	神経内科	1,000,000	補委	文部科学省
スモンに関する調査研究	矢部一郎	神経内科	700,000	補委	厚生労働省
治療の実施に関する調査研究[サリドマイド]	矢部一郎	神経内科	1,000,000	補委	厚生労働省
多発性硬化症におけるB細胞免疫に関する研究	新野正明	神経内科	1,400,000	補委	文部科学省
白血球接着分子VAP-1の眼窩腫瘍における予後予測因子としての検討	野田実香	眼科	1,560,000	補委	日本学術振興会
新たな網羅的糖鎖解析グライコプロテイング法によるぶどう膜炎の病態解明	南場研一	眼科	1,820,000	補委	日本学術振興会
血管内皮細胞増殖因子(VEGF)阻害による白血球接着分子PSGL-1動態の解析	野田航介	眼科	2,080,000	補委	日本学術振興会
糖尿病網膜症の血管新生におけるalphaB-crystallinの役割	加瀬論	眼科	1,599,000	補委	日本学術振興会
マウス眼内レンズ挿入光照射モデルにおける着色眼内レンズの視細胞保護効果	石田晋	眼科	1,300,000	補委	日本学術振興会
フォン・ヒッペルリンドウ病の病態調査と診断治療系確立の研究	石田晋	眼科	900,000	補委	厚生労働省
子宮体がんに対する標準的化学療法の確立に関する研究	櫻木 範明	婦人科	700,000	補委	慶應義塾大学
地域における周産期医療システムの充実と医療資源の適正配置に関する研究	櫻木 範明	婦人科	2,000,000	補委	東北大学
更年期障害に対する加味逍遙散のプラセボ対照二重盲検群間比較試験	櫻木 範明	婦人科	1,000,000	補委	弘前大学
ピロリ菌除菌による胃癌予防の経済評価に関する研究	加藤元嗣	光学医療診療部	1100万円	補委	厚生労働科学

メンタルコミットロボットを用いた入院支援活動が患児と家族に与える精神的変化の研究 —ロボットセラピーによる癒しの効果—	岡田 忠雄	小児外科	800,000	補 委	北大産学連携本部
内視鏡拡大イメージングを用いた肝門部胆管レムナント観察による胆道閉鎖症予後予測因子の新規開発	岡田 忠雄	小児外科	500,000	補 委	文部科学省
肺癌におけるフコシル化糖鎖合成系の異常とバイオマーカー開発に関する研究	秋田弘俊	腫瘍内科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
AP1阻害感受性の差を利用した肺癌治療の新たな分子標的の同定	木下一郎	腫瘍内科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
脳形成異常の成立機序の解明と治療法確立のための融合的な研究	白石秀明	小児科	1,500,000	補 委	厚生労働省
出生コホート研究による環境化学物質の次世代影響ならびに環境遺伝相互作用の解明	白石秀明	小児科	200,000	補 委	日本学術振興会
アンジェルマン及びプラダー・ウイリー症候群の中枢神経機能障害の成因に関する研究	斉藤伸治	小児科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
胎児診断における難治性脳形成障害症の診断基準の作成	斉藤伸治	小児科	500,000	補 委	厚生労働省
小児神経伝達物質病の診断基準の作成と患者数の実態調査に関する研究	斉藤伸治	小児科	800,000	補 委	厚生労働省

小計9

わが国におけるX連鎖αサラセミア・精神遅滞(ATR-X)症候群の診断基準・診療指針の作成および医療・患者間の情報ネットワークの確立	斉藤伸治	小児科	1,000,000	補 委	厚生労働省
14番染色体父親性・母親性ダイノミーおよび類縁疾患の診断・治療指針作成	斉藤伸治	小児科	3,000,000	補 委	厚生労働省
うつ病における脳拡散テンソル異常に関する研究	寺江 聡	放射線診断科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
膝痛の診断・治療に関する調査研究	岩崎倫政	整形外科	2,000,000	補 委	厚生労働科学研究
高純度硬化性ゲルを用いた無細胞移植軟骨再生医療法の開発	岩崎倫政	整形外科	11,830,000	補 委	日本学術振興会
関節疾患治療のための新規注射剤の実用化研究	岩崎倫政	整形外科	26,000,000	補 委	JST
心血管ストレス応答におけるミトコンドリア活性酸素シグナル制御	筒井 裕之	循環器内科	21,320,000	補 委	文部科学省
心筋リモデリングにおけるミトコンドリア転写因子制御の分子機構の解明と治療への応用	筒井 裕之	循環器内科	5,330,000	補 委	日本学術振興会
脂質代謝改善作用をもつ機能性素材開発	筒井 裕之	循環器内科	1,981,819	補	文部科学省
高齢者における心不全在宅医療に関する研究	筒井 裕之	循環器内科	2,000,000	補 委	厚生労働省
特発性心筋症に関する調査研究	筒井 裕之	循環器内科	1,000,000	補 委	厚生労働省

小計11

アリスキレンの心不全マウスにおける骨格筋及び脂肪細胞の代謝改善効果	筒井 裕之	循環器内科	7,000,000	補 委	ノバルティスファーマ株式会社
急性冠症候群患者におけるアテローム血栓性イベントの発症率に関する前向き観察研究	筒井 裕之	循環器内科	100,000	補 委	サノフィ・アベンティス㈱・メビックス㈱
アリスキレンの糖尿病マウスにおける心筋リモデリングに対する影響の検討	筒井 裕之	循環器内科	2,500,000	補 委	ノバルティスファーマ株式会社
マーリンアットホームを用いた遠隔モニタリングシステムによる高周波アンテナ付植込み型パルスジェネレータのデータ取得の有用性を確認するための自主研究	横式 尚司	循環器内科	520,000	補 委	セントジュードメディカル㈱
高血圧性心房電氣的リモデリングに対する伸展活性化チャネル阻害による心房細動治療	横式 尚司	循環器内科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
マルチスライスCTによるハイリスク冠動脈疾患患者の早期診断及び予防治療戦略の構築	後藤 大祐	循環器内科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
心臓再同期療法における酢酸、水PETを用いた心筋局所酸素代謝、心筋血流の評価	千葉 知	循環器内科	650,000	補 委	日本学術振興会
PAI-1の冠動脈衣装血管保護作用の解明と心筋梗塞の新規治療への応用	金子 壮朗	循環器内科	910,000	補 委	日本学術振興会
骨格筋ミトコンドリア機能からみた血流制限下レジスタンス運動の機序の解明と臨床応用	菅 唯志	循環器内科	800,000	補 委	日本学術振興会
ナチュラルキラーT細胞による動脈硬化における慢性炎症遷延化の分子基盤の解明	石森 直樹	循環器内科	2,600,000	補 委	日本学術振興会
慢性心不全患者に対するASV療法の心臓交感神経活性に対する効果の解析	榊原 守	循環器内科	1,950,000	補 委	日本学術振興会
マクロファージ遊走阻止因子制御による腱・靭帯組織の修復促進に関する研究	遠山晴一	リハビリテーション部	1,690,000	補 委	日本学術振興会
機能的MRIと機能的近赤外線スペクトロスコピーを用いた嚥下時の脳活動に関する研究	生駒一憲	リハビリテーション科	4,940,000	補 委	日本学術振興会
高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究	生駒一憲	リハビリテーション科	1,500,000	補 委	厚生労働省

小計14



人と機械の融合マシン技術に関する研究	生駒一憲	リハビリテーション科	1,300,000	補委	日本学術振興会
難治性神経因性疼痛に対する大脳一次運動野刺激の多施設共同研究:継続的反复的経頭蓋磁気刺激による効果判定とメカニズム解析	生駒一憲	リハビリテーション科	800,000	補委	厚生労働省
反復磁気刺激によるパーキンソン病治療の確立	生駒一憲	リハビリテーション科	800,000	補委	厚生労働省
がんのリハビリテーションガイドライン作成のためのシステム構築に関する研究	生駒一憲	リハビリテーション科	1,000,000	補委	厚生労働省
高次脳機能障がい者支援事業(リハビリ支援コーディネート事業)	生駒一憲	リハビリテーション科	4,539,000	補委	北海道
肝臓移植における重水を主体とした新規臓器保存液の開発	藤堂省	第一外科	17,680,000	補委	日本学術振興会
臓器ストレス測定法の開発と外科領域への応用	藤堂省	第一外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌再発・転移成立における遊離癌細胞と宿主側因子との相互関係の検討	神山俊哉	第一外科	780,000	補委	日本学術振興会
新規NF-κB活性阻害剤(DHMEQ)を用いた炎症性腸疾患の新しい治療法	鈴木友己	第一外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
大腸癌微小転移における癌幹細胞の役割	崎浜秀康	第一外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
核医学手法による実験動物でのアークの性状評価と治療効果判定	玉木 長良	核医学診療科	4,420,000	補委	文部科学省
医薬工連携を活かしたPET専門人材育成拠点～分子イメージング研究戦略推進プログラム～	玉木 長良	核医学診療科	5,000,000	補委	文部科学省
オール北海道先進医学・医療拠点形成	玉木 長良	核医学診療科	2,000,000	補委	文部科学省
PETを用いた喫煙者の冠動脈内皮機能障害と治療効果に関する研究	玉木 長良	核医学診療科	2,000,000	補委	喫煙科学研究財団

小計14

頭部外傷における神経脱落とリハビリテーション効果の予測について	志賀 哲	核医学診療科	1,300,000	補 委	文部科学省
腫瘍内低酸素イメージングによる「がん」のプロファイリング	竹井 俊樹	核医学診療科	1,170,000	補 委	文部科学省
動脈硬化症の早期診断、治療効果判定のための包括的・生理的・心血管機能診断システムの確立	吉永 恵一郎	核医学診療科	500,000	補 委	成人血管病研究振興財団
3D収集82Rb-PETによる心筋血流量定量(心臓医学領域)	真鍋 治	核医学診療科	200,000	補 委	伊藤医薬学術交流財団
PD-ECGを標的とした腫瘍イメージング：新規核酸誘導体による基礎的検討	西嶋 剣一	分子イメージング講座	1,040,000	補 委	文部科学省
全身麻酔後の悪心・嘔吐に対する術中低血圧の影響	黒住 章弘	口腔系歯科	500,000	補 委	文部科学省
高齢者プロポフォール静脈内鎮静法におけるTCIポンプを用いた新しい管理方法の検討	藤澤 俊明	口腔系歯科	100,000	補 委	文部科学省

小計7

延髄痛覚情報伝達システムの可塑性における免疫組織化学的手法による三次元的解析	詫間 滋	口腔系歯科	700,000	補委	文部科学省
低酸素領域の分子イメージングに基づいた口腔癌治療戦略	北川善政	口腔系歯科	6,700,000	補委	日本学術振興会
徐神経嚥下筋におけるエネルギー代謝と筋病理学的解析	北川善政	口腔系歯科	1,800,000	補委	日本学術振興会
カーボンナノチューブ被覆によるインプラント材料の骨伝導能の改善	野谷健一	口腔系歯科	1,100,000	補委	日本学術振興会
2種類のPET診断を用いたビスホスホネート関連顎骨壊死に対する新たな治療戦略	山崎 裕	口腔系歯科	1,200,000	補委	日本学術振興会
咀嚼筋の分化と痛みに対する交感神経活動の影響	佐藤 淳	口腔系歯科	1,300,000	補委	日本学術振興会
口腔カンジダ症の発症因子としてのToll様受容体、制御性T細胞に関する研究	秦 浩信	口腔系歯科	1,200,000	補委	文部科学省
口腔癌に対する放射線化学療法でのMethionine-PETによる評価	阿部貴洋	口腔系歯科	1,200,000	補委	文部科学省
口腔癌選択的発現増強アデノウイルスベクターの開発	葛巻 哲	口腔系歯科	1,800,000	補委	文部科学省

小計9

口腔癌幹細胞と癌の微小環境の細胞生物学的特異性を標的とした治療法の開発	戸塚 靖則	口腔系歯科	8,500,000	補委	日本学術振興会
HuRの核外輸送を指標とした口腔がん悪性度診断の基礎検討	戸塚 靖則	口腔系歯科	1,000,000	補委	日本学術振興会
免疫担当細胞を標的とした新たなBRONJ治療法の開発	鄭 漢忠	口腔系歯科	1,700,000	補委	日本学術振興会
血管内皮前駆細胞の組織再生への応用	小野 貢伸	口腔系歯科	800,000	補委	日本学術振興会
金属製生体材料からの生体・細胞内での微量溶出金属元素の分布・状態評価	高師 則行	口腔系歯科	1,000,000	補委	日本学術振興会
独創的なアプローチによる真のシスプラチン耐性遺伝子の検索	大廣 洋一	口腔系歯科	700,000	補委	日本学術振興会
自家神経移植の新たなドナーの臨床応用をめざして-歯髄神経を用いて-	松下 和裕	口腔系歯科	900,000	補委	日本学術振興会
抗酸化物質を用いた口腔癌周囲環境中の活性酸素を治療標的とした新規治療薬の開発	松沢 祐介	口腔系歯科	2,100,000	補委	日本学術振興会
Toll様受容体5を介した歯槽骨代謝機構に関する分子生物学的探索	中村公也	保存系歯科	1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔炎症の新しい簡便診断法- MPOによる新しい唾液検査法-	兼平 孝	保存系歯科	500,000	補委	日本学術振興会
Toll様受容体5を介した歯槽骨代謝機構に関する分子生物学的探索	中村公也	保存系歯科	900,000	補委	日本学術振興会
fMRIを用いた口輪筋機能と脳機能の評価と口輪筋訓練の効果の評価に関する研究	飯田順一郎	咬合系歯科	500,000	補委	「連携機能を活用した口腔からQOL向上を目指す研究」の新潟大を基幹校とした補助金
歯に対する微小変位の間歇的繰返し付与は歯を効率よく移動する	佐藤 嘉晃	咬合系歯科	1,100,000	補委	日本学術振興会
ナノマテリアルを応用した歯科矯正用FRP審美ワイヤーの開発	山方 秀一	咬合系歯科	800,000	補委	日本学術振興会
無歯顎症例における顎堤形態に応じた適切な咬合面形態の最適形状決定法による検討	高山芳幸	咬合系歯科	900,000	補委	日本学術振興会
成長因子含有人工骨でデッドスペースを補填する新たな抜歯即時インプラント法の開発	小松原浩実	咬合系歯科	700,000	補委	日本学術振興会

インプラント埋入初期におけるオッセオインテグレーション獲得を阻害する原因の解明	堀内留美	咬合系歯科	1,030,000	補委	日本学術振興会
pooled DNAタイピングを用いた顎顔面変形症のゲノムワイド遺伝的関連解析	梶井 貴史	咬合系歯科	1,500,000	補委	日本学術振興会
不正咬合が誘発する情動変化とストレス関連物質—海馬機能と脳腸相関から—	菅原 由紀	咬合系歯科	1,300,000	補委	日本学術振興会
骨移植の成否に関与する要因から考察した造血幹細胞による骨組織再生療法に関する研究	松野 美乃	咬合系歯科	1,100,000	補委	日本学術振興会
メタボリックシンドロームに対する矯正治療の基礎的検討—血管の応答性に関して—	角野 晃大	咬合系歯科	1,300,000	補委	日本学術振興会
PTH/PTHrP受容体シグナルによるコンドロイチン硫酸の低硫酸化と軟骨組織異常	和田 悟史	咬合系歯科	1,200,000	補委	日本学術振興会
高齢化社会に向けて歯周病患者に対する歯科矯正治療からのアプローチ	日下部 豊寿	咬合系歯科	1,000,000	補委	公益財団法人秋山記念生命科学振興財団
ウェアラブル筋電図測定システムを用いた顎関節症患者の覚醒時ブラキシズムの実態解明	山口泰彦	高次口腔医療センター	650,000	補委	日本学術振興会
ゲームプレイが口腔機能に与える影響についての研究	金子 知生	高次口腔医療センター	700,000	委	財団法人中山隼雄科学技術文化財団
3テスラMR装置を用いた31P-CSIによる頭頸部悪性腫瘍の治療効果判定	箕輪 和行	高次口腔医療センター	1,900,000	補委	日本学術振興会
睡眠時ブラキシズムに対するスプリントの効果は交感神経活動の変化と関連するか？	後藤田章人	高次口腔医療センター	2,470,000	補委	日本学術振興会

小計11

RNA-タンパク複合体の核外輸送と細胞のがん化との関連	石川 誠	高次口腔医療センター	1,000,000	補 委	日本学術振興会
1ステップ型接着システムの臨床的スマ ア層溶解能に基づく分類と短・長期的 接着性能	井上 哲	口腔総合治療部	1,400,000	補 委	日本学術振興会
高機能化カーボンナノ物質修飾3次元スキャ ホールドを用いた顎骨組織の再建	横山敦郎	口腔機能学講座	7,500,000	補 委	日本学術振興会
ソケットプリザベーション後のインプラ ント埋入における骨の動態に関する研究	山本 悟	口腔機能学講座	1,500,000	補 委	日本学術振興会
時系列解析による咬合、全身姿勢、重 心動揺および身体機能の関連性解明	坂口 究	口腔機能学講座	500,000	補 委	日本学術振興会
カーボンナノチューブの3次元細胞培 養担体への応用	平田恵理	口腔機能学講座	700,000	補 委	日本学術振興会
バーチャルスライドシステムを用いたが んの病理診断支援のあり方に関する研 究	松野吉宏	病理部	13,725,000	補 委	厚生労働省
悪性胸膜中皮腫の診断および治療法 の確立とアスベスト曝露の実態に関す る研究	松野吉宏	病理部	1,000,000	補 委	厚生労働省
がん診療を標準化するための病理診 断基準の確立と普及、ならびに全国的 な病理診断精度保証システムの構築 に関する研究	松野吉宏	病理部	1,300,000	補 委	国立がん研究センター
多施設共同研究の質の向上のための 研究体制確立に関する研究	松野吉宏	病理部	900,000	補 委	国立がん研究センター
胸膜中皮腫における遺伝子異常検索: 胸水検体を用いたmethylation解析	丸川活司	病理部	570,000	補 委	日本学術振興会
組織型特異的形質を用いた、細胞診 検体による非小細胞肺癌の組織型推 定の試み	森谷 純	病理部	570,000	補 委	日本学術振興会
抗HER2治療抵抗性を示すp95HER2タ ンパクの測定法の確立と検査実用化の 試み	畑中 豊	病理部	1,220,000	補 委	日本学術振興会

小計13

ヒトコロナウイルス感染症の疾患スペクトラム及び病態の解明に関する研究	石黒信久	感染制御部	1,900,000	補委	日本学術振興会
因果効果に基づく代替変数の妥当性評価基準の開発	大庭 幸治	高度先進医療支援センター	650,000	補委	科学研究費補助金

小計2  
合計202

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
LUPUS	Clinical features of reversible posterior leukoencephalopathy syndrome in patients with systemic lupus erythematosus.	藤枝雄一郎	第二内科
LUPUS	Antiprothrombin antibody: why do we need more assays?	渥美達也	第二内科
J Biol Chem	Acute down-regulation of sodium-dependent phosphate transporter NPT2a involves predominantly the cAMP/PKA pathway as revealed by signaling-selective parathyroid hormone analogs.	永井聡	第二内科
PLoS One	Perilipin Overexpression in White Adipose Tissue Induces a Brown Fat-Like Phenotype.	澤田享	第二内科
J Lipid Res	Perilipin overexpression in mice protects against diet-induced obesity.	三好秀明	第二内科
J Am Soc Nephrol	Loss of oriented cell division does not initiate cyst formation.	西尾妙織	第二内科
Clin Exp Nephrol	Transplantation-associated thrombotic microangiopathy after steroid pulse for polyserositis related to graft-versus-host disease.	石川康暢	第二内科

小計7

Clinical Radiology	Experimental MR imaging of zirconia ceramic joint implants at 1.5 and 3 T.	Kitamura N	スポーツ医学診療科
Am J Sports Med	Implantation of autogenous meniscal fragments wrapped with a fascia sheath enhances fibrocartilage regeneration in vivo in a large harvest site defect.	Kondo E	スポーツ医学診療科
J Biomed Mater Res A	Artificial cartilage made from a novel double-network hydrogel: In vivo effects on the normal cartilage and ex vivo evaluation of the friction property.	Kitamura N	スポーツ医学診療科
BioTechniques	Bioluminescence imaging of dual gene expression at the single-cell level.	Yasuda K	スポーツ医学診療科
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc	Tunnel location in transparent 3-dimensional CT in anatomic double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction with the trans-tibial tunnel technique.	Yasuda K	スポーツ医学診療科
Arthroscopy	Biomechanical evaluation of a novel application of a fixation device for bone-tendon-bone graft (EndoButton CL BTB) to soft-tissue grafts in anatomic double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction.	Kondo E	スポーツ医学診療科
Arthroscopy	Anatomic double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction.	Yasuda K	スポーツ医学診療科
Clin Biomech	Effects of maturation on the mechanical properties of regenerated and residual tissues in the rabbit patellar tendon after resection of its central one-third.	Yasuda K	スポーツ医学診療科
Am J Sports Med	Biomechanical comparisons of knee stability after anterior cruciate ligament reconstruction between 2 clinically available transtibial procedures: anatomic double bundle versus single bundle.	Kondo E	スポーツ医学診療科
J Biomed Mater Res A	Gene expression, glycoalyx assay, and surface properties of human endothelial cells cultured on hydrogel matrix with sulfonic moiety: Effect of elasticity of hydrogel.	Yasuda K	スポーツ医学診療科
Advanced Engineering Materials	Study on the sliding friction of endothelial cells cultured on hydrogel and the role of glycoalyx on friction reduction.	Yasuda K	スポーツ医学診療科



Polym Chem	Robust bonding and one-step facile synthesis of tough hydrogels with desirable shape by virtue of the double network structure.	Yasuda K	スポーツ医学診療科
J Biomed Biotechnol	In vivo imaging of particle-induced inflammation and osteolysis in the calvariae of NF $\kappa$ B/luciferase transgenic mice.	Yasuda K	スポーツ医学診療科
Biomed Mater	Effects of increased collagen-matrix density on mechanical properties and in vivo absorbability of hydroxyapatite-collagen composites as artificial bone materials.	Kondo E	スポーツ医学診療科
BMC Musculoskel Disord	Spontaneous hyaline cartilage regeneration can be induced in an osteochondral defect created in the femoral condyle using a novel double-network hydrogel.	Yokota M	スポーツ医学診療科
J Biomech	Deficiency of macrophage migration inhibitory factor gene delays healing of the medial collateral ligament: A biomechanical and biological study.	Kitayama S	スポーツ医学診療科
J Mater Sci Mater Med	In vivo effects of isolated implantation of salmon-derived crosslinked atelocollagen sponge into an osteochondral defect.	Kawaguchi Y	スポーツ医学診療科
J Mater Sci Mater Med	Joint immobilization inhibits spontaneous hyaline cartilage regeneration induced by a novel double-network gel implantation.	Kitamura N	スポーツ医学診療科
Plast Reconstr Surg	Aesthetic correction of postoperative pectoral deformity after minimally invasive funnel chest repair	古川 洋志	形成外科
Dermatol Surg	A new modified technique for removing epidermal cysts using a trepan in one stage with a small postoperative scar and no recurrence	舟山 恵美	形成外科
J Plast Reconstr Aesthet Surg	Reconstruction following resection of soft-tissue sarcomas at the ankle region in 7 patients	齋藤 亮	形成外科
Microsurgery	Continuous local intra-arterial infusion of anticoagulants for microvascular free tissue transfer in primary reconstruction of the lower limb following resection of sarcoma	齋藤 亮	形成外科

Oncogene	Notch3 cooperates with the EGFR pathway to modulate apoptosis through the induction of bim	Konishi Jun	第一内科
Am J Respir Cell Mol Biol	Aging Enhances Susceptibility to Cigarette Smoke-Induced Inflammation through Bronchiolar Chemokines	Moriyama Chinatsu	第一内科
Lung Cancer	Clinical characteristics of pleomorphic carcinoma of the lung	Ito Kenichirou	第一内科
Lung	Levels of Transferrin in Bronchoalveolar Lavage Fluid in Sarcoidosis	Shigemura Masahiko	第一内科
Lung Cancer	Combining transbronchial biopsy using endobronchial ultrasonography with a guide sheath and positron emission tomography for the diagnosis of small peripheral pulmonary lesions	Mizugaki Hidenori	第一内科
J Hum Genet	A functional polymorphism (-603A→G) in the tissue factor gene promoter is associated with adult-onset asthma	Isada Akira	第一内科
Cancer	Distinctive expression of the polycomb group proteins Bmi1 polycomb ring finger oncogene and enhancer of zeste homolog 2 in nonsmall cell lung cancers and their clinical and clinicopathologic significance	Kikuchi Junko	第一内科
Respir Med	Airflow limitation and airway dimensions assessed per bronchial generation in older asthmatics	Shimizu Kaoruko	第一内科
BMC Medical Genetics	Genetic variants in mannose receptor gene(MRC1) confer susceptibility to increased risk of sarcoidosis	Hattori Takeshi	第一内科
Allergy Asthma Proc	The role of atopy in the clinical course of pulmonary sarcoidosis in the Japanese population	Hattori Takeshi	第一内科
Human Pathology	High levels of extracellular matrix metalloproteinase inducer are expressed in lymphangioliomyomatosis	Odajima Nao	第一内科

小計11

Cancer Immunol Immunother	CD8(+) tumor-infiltrating lymphocytes predict favorable prognosis in malignant pleural mesothelioma after resection	Yamada Noriyuki	第一内科
アレルギー	気管支喘息及び鼻炎における血清総IgE値及び末梢血好酸球数の検討	高橋 歩	第一内科
Contact Dermatitis	Occupational contact dermatitis caused by asparagus	Yanagi T	皮膚科
Am J Pathol	Self-improvement of keratinocyte differentiation defects during skin maturation in ABCA12-deficient harlequin ichthyosis model mice.	Yanagi T	皮膚科
Am J Pathol	Self-improvement of keratinocyte differentiation defects during skin maturation in ABCA12-deficient harlequin ichthyosis model mice.	Yanagi T	皮膚科
J Immunol	A novel active mouse model for bullous pemphigoid targeting humanized pathogenic antigen.	Ujii H	皮膚科
Acta Derm Venereol	Successful treatment of nail lichen planus with topical tacrolimus.	Ujii H	皮膚科
Arch Dermatol	Hereditary benign telangiectasia: two families with punctate telangiectasias surrounded by anemic halos.	Ujii H	皮膚科
Dermatol Clin	Epidermolysis bullosa in Japan.	Shinkuma S	皮膚科
Hum Mutat	Prevalent LIPH founder mutations lead to loss of P2Y5 activation ability of PA-PLA1alpha in autosomal recessive hypotrichosis.	Shinkuma S	皮膚科
Int J Dermatol	An Indian family with Sjogren-Larsson syndrome caused by a novel ALDH3A2 mutation.	Sakai K	皮膚科

Dermatology	Pyoderma Gangrenosum of the Eyelid: Report of Two Cases and Review of the Literature.	Saito N	皮膚科
Contact Dermatitis	Generalized exacerbation of systemic allergic dermatitis due to zinc patch test and dental treatments.	Saito N	皮膚科
J Invest Dermatol	Japanese-specific filaggrin gene mutations in Japanese patients suffering from atopic eczema and asthma.	Osawa R	皮膚科
J Am Acad Dermatol	Self-healing congenital generalized skin creases: Michelin tire baby syndrome.	Nomura Y	皮膚科
J Dermatol Sci	Chromosome 11q13.5 variant: No association with atopic eczema in the Japanese population.	Nomura Y	皮膚科
Acta Derm Venereol	Response of intractable skin ulcers in recessive dystrophic epidermolysis bullosa patients to an allogeneic cultured dermal substitute.	Natsuga K	皮膚科
Br J Dermatol	Circulating IgA and IgE autoantibodies in antilaminin-332 mucous membrane pemphigoid.	Natsuga K	皮膚科
Hum Mutat	Plectin deficiency leads to both muscular dystrophy and pyloric atresia in epidermolysis bullosa simplex.	Natsuga K	皮膚科
J Invest Dermatol	Complete paternal isodisomy of chromosome 17 in junctional epidermolysis bullosa with pyloric atresia.	Natsuga K	皮膚科
Hum Mutat	Plectin expression patterns determine two distinct subtypes of epidermolysis bullosa simplex.	Natsuga K	皮膚科
Clin Exp Dermatol	Two cases of cutaneous sporotrichosis in continental/microthermal climate zone: global warming alert?	Inokuma D	皮膚科

小計11

J Am Acad Dermatol	Aleukemic leukemia cutis with extensive bone involvement.	Iitani MM	皮膚科
Acta Derm Venereo	Squamous cell carcinoma in a chronic genital ulcer in Behcet's disease.	Hata H	皮膚科
J Allergy Clin Immunol	Topical application of dehydroxymethylepoxyquinomicin improves allergic inflammation via NF- $\kappa$ B inhibition.	Hamasaka A	皮膚科
J Dermatol	Effective treatment for porphyria cutanea tarda with oral cimetidine.	Fujita Y	皮膚科
Proc Natl Acad Sci U S A	Bone marrow transplantation restores epidermal basement membrane protein expression and rescues epidermolysis bullosa model mice.	Fujita Y	皮膚科
Acta Derm Venereol	Diagnostic pitfalls of using dermoscopic features to differentiate between malignant melanoma and pigmented seborrheic keratosis.	Aoyagi S	皮膚科
J Surg Oncol	Controlling the histological margin for non-melanoma skin cancer conveniently using a double-bladed scalpel.	Aoyagi S	皮膚科
Br J Dermatol	Partially disturbed lamellar granule secretion in mild congenital ichthyosiform erythroderma with ALOX12B mutations.	Akiyama M	皮膚科
Am J Pathol	Transglutaminase1 preferred substrate peptide K5 is an efficient tool in diagnosis of lamellar ichthyosis.	Akiyama M	皮膚科
J Dermatol Sci	Topical application of anti-angiogenic peptides based on pigment epithelium-derived factor can improve psoriasis.	Abe R	皮膚科
Allergol Int	Filaggrin gene defects and the risk of developing allergic disorders.	Osawa R	皮膚科

小計11

J Dermatol Sci	Expression of exon-8-skipped kindlin-1 does not compensate for defects of Kindler syndrome.	Natsuga K	皮膚科
Exp Dermatol	A founder effect of c.1938delC in ITGB4 underlies junctional epidermolysis bullosa and its application for prenatal testing.	Natsuga K	皮膚科
歯科医療2010年春号	味覚障害の臨床	北川善政	口腔系歯科
歯科医療2010年春号	歯科医療に必要な口腔顎顔面痛の知識	佐藤 淳	口腔系歯科
歯科医療2010年春号	顎関節症:最近の動向	佐藤千晴	口腔系歯科
歯科医療2010年春号	大学病院における口腔ケアと医科との連携	秦 浩信	口腔系歯科
歯科医療2010年春号	金属アレルギー	村田 翼	口腔系歯科
歯科医療2010年春号	カンジダ症と舌痛症の鑑別	山崎 裕	口腔系歯科
歯科医療2010年春号	口腔領域低侵襲手術	佐藤 明	口腔系歯科
歯科医療2010年春号	HIVや血液疾患の口腔病変	杉浦千尋	口腔系歯科
日本口腔診断学会雑誌	左外耳道癌術後に生じた咬合不全に対して非観血的に咬合誘導を行った1例	北森正吾	口腔系歯科

小計11

日本口腔診断学会雑誌	維持透析患者における下顎骨肉癌の治療経験	阿部貴洋	口腔系歯科
Odontology	Ring fibers visualized by electron microscopy in a Japanese patient with malignant hyperthermia	Yoshimasa Kitagawa	口腔系歯科
日本口腔外科学会雑誌	下顎管拡大を伴った下歯槽神経由来の神経周膜腫の1例	秦 浩信	口腔系歯科
日本口腔診断学会雑誌	低酸素応答性レポーター遺伝子安定発現ヒトグリオーマ細胞株の樹立	村井知佳	口腔系歯科
北海道歯学雑誌	咬合挙上副子を用いた咬合挙上が咽頭期嚥下運動に及ぼす影響について	北森正吾	口腔系歯科
北海道歯学雑誌	パロキセチンとロフラゼプ酸エチルが奏功した心因性味覚障害の検討	竹内康人	口腔系歯科
北海道歯学雑誌	補充療法ガイドラインに基づいた血友病B患者の抜歯経験	中村裕介	口腔系歯科
MEDIMOND s.r.l.	Pain is a prognostic factor in association with cancer growth pattern and clinical stage in patients with oral squamous cell carcinoma	Jun Sato	口腔系歯科
日本口腔診断学会雑誌	低酸素応答性レポーター遺伝子安定発現ヒトグリオーマ細胞株の樹立	村井知佳	口腔系歯科
日本顎変形症雑誌	顎変形症患者の術後の嘔気・嘔吐に関する検討	大井 一浩	口腔系歯科
北海道歯学会雑誌	北海道大学病院歯科診療センターにおけるRapidPrototyping Techniqueにより作成した顎顔面模型の臨床応用	大井 一浩	口腔系歯科

小計11

北海道歯学会雑誌	家兔下顎骨・骨空洞の治癒過程におけるPLGA・コラーゲン・ハイブリッド・メッシュの有用性の検討	野呂 洋輔	口腔系歯科
J Oral Maxillofac Surg	Chin augmentation by thin cortical bone concomitant with advancement genioplasty.	松下 和裕	口腔系歯科
Asian journal of oral and maxillofacial Surgery 22	A case of skeletal lateral open bite treated by vertical distraction osteogenesis.	大井 一浩	口腔系歯科
Materials Science and Engineering B	Strong adhesion of Saos-2 cells to Multi-walled Carbon Nanotubes,	松岡 真琴	口腔系歯科
Cancer Research	HuR knockdown Changes the Oncogenic Potential of Oral Cancer Cells Molecular.	格口 涉	口腔系歯科
Oral Maxillofac Surg	Tooth-borne distraction of the lower anterior subapical segment for correction of class II malocclusion subsequent to genioplasty.	松下 和裕	口腔系歯科
J Oral Maxillofac Surg 2010 in press	Removal of broken screws using a hollow rubber tube	松下 和裕	口腔系歯科
Am J Pathol	expression specifically observed in vivo promotes epithelial mesenchymal transition and tumor progression.	山田 珠希	口腔系歯科
日本口腔外科学会雑誌	下顎外側皮質骨を用いた顎裂部骨移植術の考案	三古谷 忠	高次口腔医療センター
Cleft Palate-Craniofacial Journal	Monocortical mandibular bone grafting for reconstruction of alveolar cleft.	Tadashi MIKOYA	高次口腔医療センター
顎機能誌	自宅睡眠時における律動性咀嚼筋活動のバースト持続時間と最大活動量の分布様式	松田 慎平	高次口腔医療センター

小計11



歯科医療2010年春号	口内炎と口腔粘膜疾患	石川 誠	高次口腔医療センター
Head Neck	Importance of comorbidity in hypopharyngeal cancer	Homma A	耳鼻咽喉科
Rhinology	Preservation of the nasolacrimal duct during endoscopic medial maxillectomy for sinonasal inverted papilloma	Nakamaru Y	耳鼻咽喉科
HIPPOCAMPUS	Heterosynaptic Enhancement of the Excitability of Hippocampal Mossy Fibers by Long-Range Spill-Over of Glutamate	Uchida T	耳鼻咽喉科
J Neuroimmunol	Decreased IL-10 production mediated by Toll-like receptor 9 in B Cells in multiple sclerosis	Hirofumi M	神経内科
J Neurol	Dissociation between the severity of cerebrospinal fluid hypovolemia and MRI findings	Matsushima M	神経内科
J Med Genet	MERRF/MELAS overlap syndrome: a double pathogenic mutation in mitochondrial tRNA genes	Yabe I	神経内科
Arch Neurol	Mapping of Autosomal Dominant Cerebellar Ataxia Without the Pathogenic <i>PPP2R2B</i> Mutation to the Locus for Spinocerebellar Ataxia 12	Sato K	神経内科
J Neurol	Writing errors as a result of frontal dysfunction in Japanese patients with amyotrophic lateral sclerosis	Tsuji-Akimoto S	神経内科
J Neurol	FDG-PET SUV can distinguish between spinal sarcoidosis and myelopathy with canal stenosis	Sakushima K	神経内科
Mov Disord	Estimation of skeletal muscle energy metabolism in Machado-Joseph disease using $(31)P$ -MR spectroscopy	Yabe I	神経内科

難病と在宅ケア	【特集:多系統萎縮症(MSA)の対処療法】診断・治療・療養の現状及び原因解明への取り組み	佐々木秀直	神経内科
北海道医学雑誌	SCA12の遺伝子座に連鎖するが、PPP2R2B遺伝子の変異を認めない優性遺伝性脊髄小脳変性症の1家系	佐藤和則	神経内科
診断と治療	急速に進行する認知症をみたときに考えること	佐久嶋研	神経内科
臨床眼科	加齢黄斑変性に対する光線力学療法の効果	吉澤史子	眼科
Acta Ophthalmol	Intravitreal anti-vascular endothelial growth factor therapy with bevacizumab for tuberous sclerosis with macular	齋藤航	眼科
FASEB J	An animal model of spontaneous metabolic syndrome: Nile grass rat.	野田航介	眼科
Jpn J Ophthalmol	Uveal effusion syndrome caused by choroidal invasion of malignant lymphoma	加瀬論	眼科
Retina	Cyclooxygenase-2 expression in human idiopathic epiretinal membrane	加瀬論	眼科
Ophthalmology	Merkel cell carcinoma of the conjunctiva.	加瀬論	眼科
Blood	AlphaB crystallin regulation of angiogenesis by modulation of VEGF.	加瀬論	眼科
Exp Eye Res	Prevention of experimental autoimmune uveoretinitis by blockade of osteopontin with small interfering RNA	岩田大樹	眼科

Invest Ophthalmol Vis Sci.	Amelioration of experimental autoimmune uveoretinitis with nuclear factor- $\kappa$ B inhibitor dehydroxy methyl epoxyquinomicin in mice	岩田大樹	眼科
Jpn J Ophthalmol	Calcium channel blocker nilvadipine, but not diltiazem, inhibits ocular inflammation in endotoxin-induced uveitis	石田晋	眼科
Clin Exp Ophthalmol	Repair of blowout orbital floor fracture by periosteal suturing	野田実香	眼科
Pharma Medica	【加齢黄斑変性up to date】加齢とAMD	石田晋	眼科
臨床眼科	【基礎研究から難治性眼疾患のブレークスルーをねらえ】糖尿病網膜症	野田航介	眼科
日本臨床	【糖尿病性細小血管症(第2版) 発症・進展制御の最前線】糖尿病網膜症 治療 新しい治療薬 VEGF阻害薬	石田晋	眼科
日本臨床	【糖尿病性細小血管症(第2版) 発症・進展制御の最前線】糖尿病網膜症 病態生理・機能異常 レニン-アンジオテンシン系	石田晋	眼科
臨床眼科	炎症性眼疾患の診療 仮面症候群	岩田大樹	眼科
あたらしい眼科	【糖尿病と糖尿病網膜症】糖尿病網膜症・黄斑症の分子病態 血管症の特性から	石田晋	眼科
実験医学	【血管研究と血管治療 血管形成メカニズムの新たな概念から炎症・がん治療、虚血性疾患の血管再生療法まで】抗血管新生療法 眼科領域における抗VEGF療法はここまで進歩した	石田晋	眼科
臨床眼科	炎症性眼疾患の診療 甲状腺眼症	新明康弘	眼科

臨床眼科	炎症性眼疾患の診療 眼窩蜂巣炎	仲昌彦	眼科
臨床眼科	炎症性眼疾患の診療 Behcet病	南場研一	眼科
Pathol Oncol Res. 2010 Sep;16(3):345-52. 2010 Jan 8. [Epub ahead of print]	Clusterin Expression Inversely Correlates with Chemosensitivity and Predicts Poor Survival in Patients with Locally Advanced Cervical Cancer Treated with Cisplatin-Based Neoadjuvant Chemotherapy and Radical Hysterectomy.	渡利 英道	婦人科
Lancet. 2010 Apr 3;375(9721):1165-72. 2010 Feb 24. [Epub ahead of print]	Survival effect of para-aortic lymphadenectomy in endometrial cancer (SEPAL study): a retrospective cohort analysis.	櫻木 範明	婦人科
Int J Clin Oncol. 2010 Sep 15. [Epub ahead of print]	Survival and prognosticators of node-positive cervical cancer patients treated with radical hysterectomy and systematic lymphadenectomy.	保坂 昌芳	婦人科
Gynecol Oncol. 2010 Dec 29. [Epub ahead of print]	A validation study of the new revised FIGO staging system to estimate prognosis for patients with stage IIIC endometrial cancer.	櫻木 範明	婦人科
European Journal of Nuclear medicine and Molecular Imaging	Performance characterization of the Inveon preclinical small-animal PET/SPECT/CT system for multimodality imaging.2011;38:742-752	孫田 恵一	放射線部
Journal of Magnetic Resonance Imaging	Detection of normal Spinal Veins by Using Susceptibility-Weighted Imaging	石坂 欣也	放射線部
Magnetic Resonance in medical Sciences	Comparison of 1H MR Spectroscopy, 3-point DIXION, and Multi-echo Gradient Echo Measuring Hepatic Fat	石坂 欣也	放射線部
Adv Ther.	Phase 1/2 clinical study of irinotecan and oral S-1 (IRIS) in patients with advanced gastric cancer.	小松嘉人	腫瘍センター
Oncology	Phase II study of combined treatment with irinotecan and S-1 (IRIS) in patients with inoperable or recurrent advanced colorectal cancer (HGCSG0302).	小松嘉人	腫瘍センター

Anticancer Drugs	Randomized phase II trial of first-line treatment with tailored irinotecan and S-1 therapy versus S-1 monotherapy for advanced or recurrent gastric carcinoma (JFMC31-0301).	小松嘉人	腫瘍センター
Jpn J Clin Oncol	Retrospective cohort study on the safety and efficacy of bevacizumab with chemotherapy for metastatic colorectal cancer patients: the HGCSG0801 study.	曾我部進	腫瘍センター
Clin Drug Investig.	Modified-irinotecan/fluorouracil/levoleucovorin therapy as ambulatory treatment for metastatic colorectal cancer: results of phase I and II studies.	結城敏志	腫瘍センター
Anticancer Research	Expression of LGR5, an intestinal stem cell marker, during each stage of colorectal tumorigenesis	木下一郎	腫瘍内科
Cancer	Distinctive expression of the polycomb group proteins Bmi1 polycomb ring finger oncogene and enhancer of zeste homolog 2 in nonsmall cell lung cancers and their clinical and clinicopathologic significance	木下一郎	腫瘍内科
Lung Cancer	Minichromosome maintenance (MCM) protein 4 as a marker for proliferation and its clinical and clinicopathological significance in non-small cell lung cancer	木下一郎	腫瘍内科
Pediatr Blood Cancer	Plasma protein C is a useful clinical marker for hepatic veno-occlusive disease (VOD) in stem cell transplantation.	井口晶裕	小児科
Clin Vaccine Immunol	Antibodies against structural and nonstructural proteins of human bocavirus in human sera	Shirkoohi, R.	小児科
Transplantation Proc.	High susceptibility to severe infectious complications at re-induction chemotherapy in patients relapsed after stem cell transplantation.	井口晶裕	小児科
Pediatr Blood Cancer	Piperacillin/tazobactam versus cefozopran for the empirical treatment of pediatric cancer patients with febrile neutropenia.	市川瑞穂、井口晶裕	小児科
Neuroimage.	Non-invasive measurement of oxygen saturation in the spinal vein using SWI: quantitative evaluation under conditions of physiological and caffeine load.	藤問憲幸	放射線診断科

Int J Radiat Oncol Biol Phys.	Relationship Between Diseased Lung Tissues on Computed Tomography and Motion of Fiducial Marker Near Lung Cancer.	小野寺祐也	放射線診断科
J Cardiovasc Comput Tomogr.	64-Slice MDCT imaging of endocardial cushion defect associated with other cardiac and extracardiac abnormalities.	真鍋徳子	放射線診断科
Skeletal Radiol.	Monitoring anti-interleukin 6 receptor antibody treatment for rheumatoid arthritis by quantitative magnetic resonance imaging of the hand and power Doppler ultrasonography of the finger.	神島 保	放射線診断科
AJR Am J Roentgenol.	Contrast-enhanced whole-body joint MRI in patients with unclassified arthritis who develop early rheumatoid arthritis within 2 years: feasibility study and correlation with MRI findings of the hands.	神島 保	放射線診断科
Skeletal Radiol.	Simplified approach to MR image quantification of the rheumatoid wrist: a pilot study.	神島 保	放射線診断科
Skeletal Radiol.	Semi-quantitative analysis of rheumatoid finger joint synovitis using power Doppler ultrasonography: when to perform follow-up study after treatment consisting mainly of antitumor necrosis factor alpha agent.	神島 保	放射線診断科
Journal of Bone and Joint Surgery (American volume)	Autologous osteochondral mosaicplasty for osteochondritis dissecans of the elbow in teenage athletes.	岩崎倫政、他	整形外科
American Journal of Sports Medicine	In vivo visualization of vascular patterns of rotator cuff tear using contrast-enhanced ultrasound.	船越忠直、他	整形外科
Journal of Shoulder and Elbow Surgery	Transplantation of tissue-engineered cartilage for the treatment of osteochondritis dissecans in the elbow. - outcomes over a 4-year follow-up in 2 cases-.	岩崎倫政、他	整形外科
Hypertens Res	Discharge use of angiotensin receptor blockers provides comparable effects with angiotensin-converting enzyme inhibitors on outcomes in patients hospitalized for heart failure.	Tsutsui H	循環器内科
Arterioscler Thromb Vasc Biol	Natural killer T cells are involved in adipose tissues inflammation and glucose intolerance in diet-induced obese mice.	Ishimori N	循環器内科

Am J Physiol Heart Circ Physiol	Tenascin-C may aggravate left ventricular remodeling and function after myocardial infarction in mice.	Tsutsui H	循環器内科
J Appl Physiol	Dose effect on intramuscular metabolic stress during low-intensity resistance exercise with blood flow restriction.	Kinugawa S	循環器内科
Int J Cardiol[Epub ahead of print]	Hyperuricemia predicts adverse outcomes in patients with heart failure.	Tsutsui H	循環器内科
Intern Med	Body mass index can similarly predict the presence of multiple cardiovascular risk factors in middle-aged Japanese subjects as waist circumference.	Tsutsui H	循環器内科
Circ J	Beta-blocker use at discharge in patients hospitalized for heart failure is associated with improved survival.	Tsutsui H	循環器内科
Neuropathology	Overexpression of mitochondrial transcription factor A (TFAM) ameliorates delayed neuronal death due to transient forebrain ischemia in mice.	Kinugawa S	循環器内科
Eur J Nucl Med Mol Imaging	Quantitative analysis of coronary endothelial function with generator-produced (82)Rb PET: comparison with (15)O-labelled water PET.	Tsutsui H	循環器内科
Eur J Nucl Med Mol Imaging	Myocardial oxidative metabolism is increased due to haemodynamic overload in patients with aortic valve stenosis: assessment using 11C-acetate positron emission tomography.	Tsutsui H	循環器内科
Hum Mol Genet	High mitochondrial DNA copy number has detrimental effects in mice.	Tsutsui H	循環器内科
Am Heart J	Spirinolactone use at discharge was associated with improved survival in hospitalized patients with systolic heart failure.	Tsutsui H	循環器内科
Eur J Nucl Med Mol Imaging	Myocardial oxidative metabolism is increased due to haemodynamic overload in patients with aortic valve stenosis: assessment using 11C-acetate positron emission tomography.	Tsutsui H	循環器内科

Circ J	Body mass index is an independent predictor of long-term outcomes in patients hospitalized with heart failure in Japan.	Tsutsui H	循環器内科
Eur J Nucl Med Mol Imaging [Epub ahead of print]	Long-term smoking causes more advanced coronary endothelial dysfunction in middle-aged smokers compared to young smokers.	Tsutsui H	循環器内科
Circ J	Prevalence and clinical implication of metabolic syndrome in chronic heart failure.	Tsutsui H	循環器内科
Cardiovasc Diabetol	Oxidant-NO dependent gene regulation in dogs with type I diabetes: impact on cardiac function and metabolism.	Kinugawa S	循環器内科
Am J Sports Med.	Implantation of autogenous meniscal fragments wrapped with a fascia sheath enhances fibrocartilage regeneration in vivo in a large harvest site defect.	Tohyama H.	リハビリテーション部
Arthroscopy	Biomechanical evaluation of a novel application of a fixation device for bone-tendon-bone graft (EndoButton CL BTB) to soft-tissue grafts in anatomic double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction.	Tohyama H	リハビリテーション部
Clin Biomech (Bristol, Avon).	Effects of maturation on the mechanical properties of regenerated and residual tissues in the rabbit patellar tendon after resection of its central one-third.	Tohyama H	リハビリテーション部
Osteoporos Int	Impaired fracture healing in macrophage migration inhibitory factor-deficient mice.	Tohyama H	リハビリテーション部
J Biomed Biotechnol.	In vivo imaging of particle-induced inflammation and osteolysis in the calvariae of NF $\kappa$ B/luciferase transgenic mice.	Tohyama H	リハビリテーション部
J Biomech.	Deficiency of macrophage migration inhibitory factor gene delays healing of the medial collateral ligament: a biomechanical and biological study.	Tohyama H	リハビリテーション部
Am J Sports Med	Local Administration of Autologous Synovium-Derived Cells Improve the Structural Properties of Anterior Cruciate Ligament Autograft Reconstruction in Sheep.	Tohyama H	リハビリテーション部

小計11



運動療法と物理療法	脳卒中片麻痺症例における麻痺側膝関節痛の検討	生駒一憲	リハビリテーション科
J Rehabil Med	Correlation of motor function with transcallosal and intracortical inhibition after stroke	生駒一憲	リハビリテーション科
J Surg Oncol	The impact of anatomical resection for hepatocellular carcinoma that meets the Milan criteria.	神山俊哉	第一外科
日本大腸肛門病学会雑誌	骨盤内動静脈奇形を合併したS状結腸癌の1例(原著論文)	本間重紀	第一外科
J Am Coll Surg	Perioperative management of hepatic resection toward zero mortality and morbidity: analysis of 793 consecutive cases in a single institution.	神山俊哉	第一外科
日本臨床外科学会雑誌	「鼠径ヘルニアに対するlight weight meshの使用経験」	島田慎吾	第一外科
J Pediatr Surg	Pediatric alveolar echinococcosis invading the diaphragm and spreading to the chest and abdominal wall.	本多昌平	第一外科
Turk J Pediatr	Menkes disease with gastroesophageal reflux disease and successful surgical treatment: a case report and literature review.	岡田忠雄	小児外科
J Pediatr Surg	Disorders of interstitial cells of Cajal in a neonate with segmental dilatation of the intestine.	岡田忠雄	小児外科
J Pediatr Surg	Severegastric damage caused by button battery ingestion in a 3-month-old infant.	本多昌平	小児外科
Nucl Med Commun	Regional partition coefficient of water in patients with cerebrovascular disease and its effect on rCBF assessment.	Hirata K	核医学診療科

Jpn J Clin Oncol.	Clinical outcomes of stereotactic brain and/or body radiotherapy for patients with oligometastatic lesions.	井上哲也	放射線治療科
Jpn J Clin Oncol.	Long-term Outcomes of Fractionated Stereotactic Radiotherapy for Intracranial Skull Base Benign Meningiomas in Single Institution.	小野寺俊輔	放射線治療科
Jpn J Clin Oncol.	Radiotherapy for glottic T1N0 carcinoma with slight hypofractionation and standard overall treatment time: importance of overall treatment time.	安田耕一	放射線治療科
日本歯科麻酔誌	歯科治療に対するプロポフォール静脈内鎮静法施行中に咳喘息の咳嗽が消失した1例	紅林奈央子	口腔系歯科
The Journal of Rheumatology	Increased expression of Phospholipid Scramblase 1 in monocytes from patients with systemic lupus erythematosus	鈴木江里子	口腔系歯科
oralSurg oralMed oralPathol oralRadiol Endod	A comparison of diagnostic tools for sjogren syndrome with emphasis on sialography histopathdogy ardultrasonography	小日向 謙一	口腔系歯科
Int J Prosthodont	Factors differentiating the morphology of mandibular edentulous alveolar ridges: A pilot study.	高山芳幸	咬合系歯科
Int J Prosthodont	Morphological factors of mandibular edentulous alveolar ridges influencing the movement of dentures calculated using finite element analysis.	高山芳幸	咬合系歯科
日補綴会誌	審美障害の回復に咬合修正を行った症例	後藤まりえ	咬合系歯科
日補綴会誌	下顎骨腫瘍摘出後に骨移植とインプラント補綴で対応した症例	大堀ことは	咬合系歯科
日補綴会誌	CSCテレスコープデンチャーで対応した歯周補綴症例.	堀内留美	咬合系歯科

小計11

Nano Biomedicine 3(1)	Optical and Mechanical Properties of Poly(methyl methacrylate) / Montmorillonite Nanocomposites	Shuichi YAMAGATA	咬合系歯科
北海道矯正歯科学会誌 38(1)	「放射線治療に起因した短根歯を伴った思春期性成長期の骨格性反対咬合の一例」	岩崎弘志	咬合系歯科
北海道矯正歯科学会誌 38(1)	「軟組織プロフィールから硬組織の上下顎前後左右的位置関係を予測する」	佐藤嘉晃	咬合系歯科
7th International Orthodontic Congress, Sydney, World Journal of Orthodontics 11 (Supple)-P	“Three-dimensional cranio-maxillary measurements of the mouse with spontaneous malocclusion using the micro-computed tomography”	Saito F	咬合系歯科
American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics, Volume 138, Number 6	“Relationship between degree of malocclusion and occlusal interference in mice that spontaneously develop anterior transverse crossbite”	Yuri Tsukamoto	咬合系歯科
J Biomed Mater Res B	3D Collagen Scaffold Coated With Multiwalled Carbon Nanotubes: Initial cell attachment to internal surface.	平田恵理	口腔機能学講座
J Electron Microsc	Transmission electron microscopic observation of cells cultured on multiwalled carbon nanotube-coated sponges.	平田恵理	口腔機能学講座
Nanotechnology	Carbon nanohorns accelerate bone regeneration in rat calvarial bone defect.	笠井孝夫	口腔機能学講座
日補綴会誌	下顎の後退による開咬によるに対して咬合再構成を行った症例.	山本悟	口腔機能学講座
Cancer Sci., 101(1): 196-200, 2010.	Potential efficacy of the oral histone deacetylase inhibitor vorinostat in a phase I trial in follicular and mantle cell lymphoma.	Watanabe T, Matsuno Y, et al.	病理部
Int. J. Hematol., 91(3): 446-455, 2010.	Prognostic analysis and a new risk model for Hodgkin lymphoma in Japan.	Itoh K, Matsuno Y, et al.	病理部

小計11

Oncol. Rep., 24(2): 537-546, 2010.	Cytoplasmic expression of CD133 is an important risk factor for overall survival in hepatocellular carcinoma.	Sasaki A, Matsuno Y, et al.	病理部
Ann. Surg., 252(1): 99-106, 2010.	Prognostic impact of regional lymph node micrometastasis in patients with node-negative biliary cancer.	Yonemori A, Matsuno Y, et al.	病理部
Ann. Oncol., 21(7): 1500-1505, 2010.	The indolent course and high incidence of t(14;18) in primary duodenal follicular lymphoma.	Mori M, Matsuno Y, et al.	病理部
Hepatogastroenterology, 57(98): 383-387, 2010.	Successful treatment of a primary gastric T-cell lymphoma lacking the human T-cell leukemia virus type 1.	Yachida S, Matsuno Y, et al.	病理部
ARP Press, Washington, DC, 2010.	Tumors of the Mediastinum, AFIP Atlas of Tumor Pathology, Fourth Series, Fascicle 11	Shimosato Y, Matsuno Y, et al.	病理部
Pathol. Int., 60(11): 707-713, 2010.	Use of tissue microarrays and immunohistochemistry to standardize the diagnosis of gastrointestinal stromal tumors.	Ogino J, Matsuno Y, et al.	病理部
Int. J. Hematol., 92(5): 732-743, 2010.	Modified cyclophosphamide, vincristine, doxorubicin, and methotrexate (CODOX-M)/ifosfamide, etoposide, and cytarabine (IVAC) therapy with or without rituximab in Japanese adult patients with Burkitt lymphoma (BL) and B cell lymphoma, unclassifiable, with features intermediate between diffuse large B cell lymphoma and BL.	Maruyama D, Matsuno Y, et al.	病理部
General Thoracic and Cardiovascular Surgery, 58(9): 491-492, 2010.	Primary thymic adenocarcinoma: a continuing enigma.	Matsuno Y.	病理部
J. Thorac. Imaging, 26(1): 74-84, 2011.	Lung Adenocarcinoma, Mixed Subtype: Histopathologic Basis for High-Resolution Computed Tomography Findings.	Terasaki H, Matsuno Y, et al.	病理部
Oncogene, 29(33): 4671-4681, 2010.	DEK oncoprotein regulates transcriptional modifiers and sustains tumor initiation activity in high-grade neuroendocrine carcinoma of the lung.	Shibata T, Matsuno Y, et al.	病理部
Gastroenterology, 140(3): 892-902, 2011.	A functional single nucleotide polymorphism in mucin 1, at chromosome 1q22, determines susceptibility to diffuse-type gastric cancer.	Saeki N, Matsuno Y, et al.	病理部

Acta. Cytol., 55(2): 173-179, 2011.	Cytological characteristics of pulmonary pleomorphic and giant cell carcinomas.	Hiroshima K, Matsuno Y, et al.	病理部	
産科と婦人科, 77(5): 67-71, 2010.	臨床試験と病理中央診断	松野吉宏	病理部	
癌診療指針のための病理診断プラクティス リンパ球増殖疾患 青笹克之・森井英一編集, pp.165-171, 中山書店, 2010.	マントル細胞リンパ腫 3章 リンパ球増殖疾患の鑑別診断	松野吉宏	病理部	
癌診療指針のための病理診断プラクティス リンパ球増殖疾患 青笹克之・森井英一編集, pp.204-209, 中山書店, 2010.	Burkittリンパ腫 3章リンパ球増殖疾患の鑑別診断	松野吉宏	病理部	
Lung	Levels of transferrin in bronchoalveolar lavage fluid in sarcoidosis	重村雅彦	検査・輸血部	
J Cli Microbiology	Impact of free-living amoebae on presence of Parachlamydia acanthamoebae in the hospital environment and its survival in vitro without requirement for amoebae	福元達也	検査・輸血部	
北海道歯科医師会誌 第66号	歯科技工士にできる補綴物品質管理の試み	大澤 孝	生体技工部	
JAMA	Benefit of Adjuvant Chemotherapy for Resectable Gastric Cancer: A Meta-analysis	大庭 幸治	高度先進医療支援センター	小計9
Clinical Trilas	How to use marginal structural models in randomized trials to estimate the natural direct and indirect effects of therapies mediated by causal intermediates	大庭 幸治	高度先進医療支援センター	合計247

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 福田諭	
管理担当者氏名	総務課長 小出隆弘	医事課長 大道 元
	薬剤部長 井関 健	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各診療科 診療録管理室 総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>病歴資料については、診療科毎に作成、保管管理（一診療科一診療録）</li> <li>処方せんについては、薬剤部において保管管理</li> <li>エックス線写真については、各診療科において保管管理</li> </ul> なお、平成12年10月1日以降退院する患者に係る入院診療録（看護記録、サマリーを含む）及び外来診療録の一部は、診療録管理室にて保管管理。 ・病院日誌は総務課にて保管管理。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の体制第一項各号及び第九	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	

条の二十三第一項	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の	院内感染のための指針の策定状況	総務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	総務課
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務課
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務課	

	状況 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課
--	---	-----

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 福田 諭
閲覧担当者氏名	総務課長 小出隆弘
閲覧の求めに応じる場所	会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 件
	地方公共団体	延 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	71.0%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,483人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,661人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		728人
	D: 初診の患者の数		26,177人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I. 緊急連絡先・フローチャート</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療事故等緊急時・重大事例発生時の連絡網</li><li>・ 困った時の連絡先</li><li>・ 医療安全に関する報告・対応体制 フローチャート</li><li>・ 医療安全に関する報告後の事実調査に関するフローチャート</li><li>・ R C A 分析事例の対応フロー</li><li>・ 他院での医療事故等事案の対応</li><li>・ 当院でのガーゼ遺残疑いが判明した事案の対応フロー</li></ul> <p>II. 基本方針・体制</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理に対する基本方針 ・ 医療安全管理体制 ・ マニュアル改訂履歴</li></ul> <p>III. 共通マニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品安全使用に関する手順書 ・ 診療上の基本項目 ・ インフォームド・コンセント</li><li>・ 診療行為に関する項目 ・ 医療機器管理 ・ その他の項目 ・ 血栓/塞栓症ガイドライン</li></ul> <p>IV. 医療機器操作説明</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 人工呼吸器 ・ 輸液ポンプ ・ シリンジポンプ ・ 心電図モニター ・ 心電計 ・ 除細動器</li></ul> <p>V. 診療科・部門</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医科診療科 ・ 歯科診療センター ・ 中央部門</li></ul> <p>VI. 関連マニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 共通病床マニュアル ・ 安全衛生関係 ・ 研修医の安全管理</li><li>・ 看護師による静脈注射実施に関する施設基準</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医療事故等防止対策の検討及び推進に関すること。</li><li>(2) 医療事故等の対応及び原因究明に関すること。</li><li>(3) 医事紛争の対応等に関すること。</li><li>(4) 医療事故等の情報収集及び分析に関すること。</li><li>(5) 医療事故等防止に関する職員の教育・研修に関すること。</li><li>(6) その他医療事故等に関すること。</li></ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全の日の講演会「うそをつかない医療」</li><li>講演会「院内暴力の暴言暴力対応について」</li><li>講演会「感染・医療安全・訴訟について」</li><li>講演会「医療現場に潜む“暴言・暴力”から患者・医療者を守るために」</li><li>インスリン療法講習会</li><li>採血・穿刺時の神経損傷について</li><li>慢性的経過事例の対応について</li></ul>	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

1. 報告書に伴う問題点の把握方法 (各部署、安全管理部門の問題点の認識)

インシデント報告に関する分析からフィードバックまでの対応 (職員への周知と再発防止)

- 1) 専任リスクマネージャーが当該リスクマネージャーへ事実確認を行い、報告内容の監査・分析を行い、問題事例や有害事象の場合は当該リスクマネージャーとの事象の検討、患者の影響度、患者への対応状況などを協議し対応している。
- 2) レベル3bの有害事象の場合は、当該部署のリスクマネージャーに当該部署として検討を行った結果と再発防止策について事例報告書として詳細報告を要請し、事例報告書に基づき原因・起因を分析し、病院長に報告している。
- 3) レベル4, 5の有害事象は、専任リスクマネージャーが聞き取り・現場検証などの事実調査を行い、当該リスクマネージャー・関係者との事象の検討、患者の影響度、患者への対応などを協議している。専任リスクマネージャーが作成した検証資料に基づき、病院長・医療安全管理部長・当該部署の責任者とリスクマネージャーにより原因検討を行い、重篤な事案の場合は医療事故対策特別部会で原因検討の上、病院の見解を明確にしている。

2. 問題点の分析方法 (各部署、安全管理部門の問題点の分析方法)

- 1) 3a以上で、過失により発生した事案や重大事故の可能性のある事案に関してはRCA分析チームを編成し、RCA分析を行い原因分析・再発防止策を作成し、再発防止策について定期的評価を実施している。
- 2) 医療事故等調査・分析専門委員会において、3a以上の報告については月毎にレベル・過誤の判定と合併症の妥当性の検討を行っている。
- 3) レベル3b以上の報告は、毎週月曜日に、報告内容を分析し、原因と患者への影響度を検討し、医療事故報告制度への報告対象事例の判定を行っている。

3. 改善策の検討方法

- 1) 報告の全体的分析は毎月と年間において実施し、発生レベル・報告状況・場面別に集計し、発生場面別や職種別の発生状況について定量的分析を行い「医療安全のための報告集計報告書」を作成し、各委員会に周知を図っている。また、病院運営会議においても報告し周知を図っている。
- 2) 各診療科・部署の安全管理を図るために、前年度の当該診療科・部署での報告について年間集計し、当該診療科・部署での優先的課題を分析し、年度前半で、診療科・部署リスクマネージャー等で対策を検討し、年度末に再度、今年度の当該診療科・部署での報告について集計し、優先的課題の評価を実施し、次年度に向けて継続事項を検討している。
- 3) 医薬品・医療機器に関する事象については、関係専門委員会で再発防止策を検討し、システムの改善・教育体制などの企画を検討している。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 4名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 2名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無

- ・ 所属職員： 専任（6）名 兼任（18）名
- ・ 活動の主な内容：
  - (1) 医療事故及びインシデント報告書等の受理及び分析に関すること。
  - (2) リスクマネジメント委員会の運営及びリスクマネジャー連絡会議の運営に関すること。
  - (3) 医療安全に関する教育及び研修に関すること。
  - (4) リスクマネジャー及び関係部署との連絡調整に関すること。
  - (5) 患者相談窓口との連携。
  - (6) その他医療安全に関すること。

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

有・無

(様式第 13-2)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染対策のための指針の策定状況	㊦
<p>・指針の主な内容</p> <p>当院の北海道大学院内感染指針は以下の項目から成っている。H23.8 に改訂を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>2 院内感染対策に関する管理組織機構<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 院内感染対策委員会</li><li>(2) 院内感染対策特別部会</li><li>(3) 感染制御部</li><li>(4) 感染防止対策チーム</li><li>(5) 感染対策マネージャー連絡会議</li></ol></li><li>3 職員研修に関する基本方針</li><li>4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5 アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針 (平成23年6月17日医政指発第1号により、アウトブレイク時の対応について、該当箇所を整備した。)</li><li>6 患者等への情報提供と説明に関する基本方針</li><li>7 その他院内感染対策の推進のために基本方針</li></ol>	
②院内感染対策のための委員会開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・院内感染防止対策の検討及び推進</li><li>・院内感染防止の対応及び原因究明</li><li>・院内感染等の情報収集及び分析</li><li>・院内感染防止等に関する職員の教育・研修</li></ul>	
③従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	22 年度 24 回

- ・研修の主な内容（対象者には職員その他、外部委託者・ボランティアを含む）
  - ・院内感染対策講演会「本院における院内感染対策」
  - ・新規感染対策マネージャー講習会「院内感染対策指針と感染対策マネージャーの役割」  
「感染防止の基礎」
  - ・研修医院内感染対策研修「感染防御具の脱着方法」
  - ・専門領域研修会感染管理「感染制御の基本」
  - ・清掃外注職員研修「血液、体液、排泄物の危険性」

#### ④感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・病院における発生状況の報告等の整備（㊦）
  - ・平成23年6月17日医政指発第1号により、「感染症のアウトブレイク発生に伴う保健所への報告基準」を制定し、道内の大学附属病院間の連携構築し、保健所や大学内の報告について整備を行った。
- ・その他の改善のための方策の主な内容
  - ・感染対策指針及び感染対策マニュアルを改訂した。
  - ・感染防止対策チームを設置して、院内感染状況、抗菌薬の適正使用、職員の感染防止策等の実施状況の把握と指導を行っている。
  - ・耐性菌サーベイランス等、感染症法に基づく院内感染症発生状況の迅速な把握と対応を行っている。
  - ・病室前に貼る「感染経路別予防策のプレート」を作成、掲示した。
  - ・感染制御部専任の事務員を配置（継続）した。
  - ・月1回開催される感染対策マネージャー連絡会議の内容をどのようにして各部署の構成員に伝達したか確認するシステムを構築した。

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容： 医薬品に関する講習会「危険薬の取扱い」（看護職対象） 2 回 医薬品に関する講習会（全職種対象） 1 回 医薬品に関する講習会「循環器系危険薬の取扱い」 1 回 インスリン療法安全管理講習会 1 回</li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の作成 （有・無）</li><li>・ 業務の主な内容： 医薬品安全使用に関する手順書 1) 医療安全上、注意を要する薬剤リスト (1) 特に安全管理が必要な薬剤リスト (2) 配合注意・投与ルートで注意を要する注射薬 (3) 誤認に注意薬剤</li><li>2) 指示・伝達ルール (1) 指示・伝達ルール (2) 口頭指示は原則禁止</li><li>3) 内服薬に関する管理基準 (1) 内服薬管理基準 (2) 薬剤管理指導業務手順書 (3) 入院患者の持参薬確認業務手順書</li><li>4) 注射薬に関する管理基準 (1) 注射業務管理基準 (2) 注射薬混合調製(ミキシング)手順書</li><li>5) 危険性の高い薬剤・抗がん剤に関する手順書 (1) 危険性の高い薬剤の取扱い手順書 (2) 抗がん剤の投与に関する手順書 (3) 抗菌剤皮内反応に関する対策 (4) 抗凝固・抗血小板療法施行時における出血性合併症および抜歯・手術時の対応 (5) 抗癌剤被爆防止に関するマニュアル (6) ビグアナイド系糖尿病服薬中のヨード造影剤使用の検査について</li><li>6) 医療安全情報管理 (1) 医療安全性情報管理体制 (2) 薬剤部における医薬品情報管理手順</li><li>7) 医薬品管理 (1) 病棟における注射剤管理業務手順書 (2) 病棟における薬剤師業務基準 (3) 麻薬管理取扱い手順書</li><li>8) インスリン療法マニュアル (1) インスリン療法マニュアル (2) インスリンマップ</li></ul> <p>業務の実施状況把握のため、毎年「医薬品に関する業務調査」を行っている。</p>	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

医薬品の情報管理体制として、医療安全性情報管理体制を整備し、薬剤部における医薬品情報管理手順を作成し、それに基づき、日本医療評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」としてメールにより診療科・部門に提供している。また、関係機関からの医薬品に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼している。

医薬品に関するインシデントの分析結果を基にeラーニングシステムを構築し、活用している。  
医薬品に関するインシデント集計・分析結果により、専門委員会やワーキング等で医薬品に関するインシデント防止対策や講習会内容の検討を行っている。



医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年7回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器安全管理講習会（基礎課程3回・認定課程1回） 医療機器に関する研修 「輸液・シリンジポンプ編」2回 共用血管用エコー講習会 1回	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 （有・無） ・ 保守点検の主な内容： 医療機器管理システムを使用し、使用している医療機器の種類毎に保守点検計画の策定、実施、及び、実施の確認をしている。 【中央管理機器】 ME機器管理センターで、日常点検・稼働後の点検、3ヶ月等の定期点検、年点検の実施 不具合発生時の現場調査と故障点検の実施。 故障時のメンテナンスとメーカーとの調整。 【放射線部管理機器】 放射線診療従事者より、①始業点検、②2回/月以上の出力線量測定、③3ヶ月及び6ヶ月毎に放射線及び幾何学的点検、④漏洩線量等の放射線管理に関する測定を実施している。 他に製造メーカーと保守契約を結び年間3回の定期メンテナンスを実施している。 【診療科・部門管理機器】 医療機器管理システムを使用して、管理課で保守点検計画により機器のリストを作成し、機器の保守点検を実施を予定。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の情報管理体制として、医療安全性情報管理体制を整備。 それに基づき、日本医療評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」としてメールに診療科・部門に提供。 関係機関やメーカーからの医療機器に関する情報、新聞報道からの事故情報などは緊急情報提供と点検のお願いにて情報提供とともに現場での業務点検を依頼。 また、ME機器管理センターからメールにて医療機器情報を現場へ提供。 医療機器を管理するため北海道大学病院の医療機器管理体制を明文化し、「医療機器安全管理担当者の組織と活動を準備。 人工呼吸器稼働状況・医療機器に関する実態調査により、機器の更新に関して管理課と調整し、医療機器の集中管理を進め、医療機器安全管理体制専門委員会にて方策を検討。 医療機器に関するインシデントの分析結果を基にeラーニングシステムを構築し、活用している。	